

平成 29 年度

看護実践研究指導事業報告

I . 本事業の目的と実施概要

本事業の目的と実施概要

I. 本事業の目的

平成13年度から引き続き、県内看護職が大学の知的資源を利用して自己学習や業務改善ができるようにすることを目指し、看護の実践研究指導・研修の事業として取り組んだ。

事業の実施に際しては、単に研修や指導を行うのではなく、県内看護職の現状を把握して、現場の実態に即応した適切な指導・研修の方法を模索しながら行うこととし、現職者自身による問題解決を促進していくことを重視している。他方、大学としては、これらの活動をする一方で、今後の学部・大学院教育の充実を図り、特色ある活動を導くことを念頭においている。

研修方法は、教員が対象に合わせて創出することとしているが、①教員が看護職者の現場に出向いて現状を把握し、②看護職者や看護実践の実態に応じた指導・研修方法を開発しながら取り組むもので、③看護職者自身の主体的な問題解決を促すことを重視してきている。また、看護職者の主体的な実践研究の実施を奨励すること、岐阜県という広範な地域を視野に入れてケアサービスの質向上を目指すこと、課題解決に向けた方策を研修受講者同士が話し合っ創出すること、少人数配置など研修機会が得られがたい看護職者を対象にした研修を企画・実施すること、研修機会を通じた他施設との交流や看護職者同士のネットワークづくり等にも留意してきている。

II. 今年度の実施事業

本事業には、大学と岐阜県内の看護実践現場の看護職者との連携や組織的関係を強化するという観点から、看護研究センターの教員が本事業の全体的な調整や報告書の取りまとめを担当している。

今年度は、以下の表に示したとおり、6事業（すべて継続事業）に取り組んだ。

表1 平成29年度看護実践研究指導事業一覧

No.	開始年度	事業名	担当者
1	平成15年度 (15年目)	岐阜県看護実践研究交流会への研究支援	看護研究センター： 大川眞智子、松下光子、田辺満子、小森春佳
2	平成24年度 (6年目)	利用者ニーズを基盤とした退院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援	地域基礎看護学領域： 藤澤まこと、加藤由香里、渡邊清美、杉野緑、黒江ゆり子 機能看護学領域：橋本麻由里 看護研究センター：田辺満子 岐阜県健康福祉部医療整備課：村瀬千里
3	平成25年度 (5年目)	地域における母子保健活動の充実に向けた研修会	育成期看護学領域： 布原佳奈、服部律子、名和文香、山本真実、武田順子、松山久美、田中真理、澤田麻衣子 看護研究センター：小森春佳
4	平成27年度 (3年目)	看護の専門性を高めるマネジメント能力向上に向けた支援	機能看護学領域： 両羽美穂子、橋本麻由里、古澤幸江、宗宮真理子、水野優子、安田みき
5	平成28年度 (2年目)	専門看護師の看護実践の質向上を目指す研修会	育成期看護学領域：服部律子 地域基礎看護学領域：藤澤まこと、黒江ゆり子 成熟期看護学領域：奥村美奈子、布施恵子 機能看護学領域：橋本麻由里
6	平成28年度 (2年目)	養護教諭のスキルアップと養護教諭像の醸成を目指した学びの会	育成期看護学領域：日比薫、山本真実 機能看護学領域：松本訓枝

Ⅲ. 今年度の事業運営

年度当初の4月24日(月)正午を締め切りとして事業募集を行い、今年度は「岐阜県看護実践研究交流会への研究支援」「利用者ニーズを基盤とした退院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援」「地域における母子保健活動の充実に向けた研修会」「看護の専門性を高めるマネジメント能力向上に向けた支援」「専門看護師の看護実践の質向上を目指す研修会」「養護教諭のスキルアップと養護教諭像の醸成を目指した学びの会」の計6つの継続事業が申請された。

5月11日(木)13時より開催の第1回看護研究センター運営委員会で各事業の計画と予算が審議された結果、6事業とも承認され、事業開始となった。

また、各事業の代表者および看護研究センター教職員が出席する「代表者等会議」を5月と12月の2回開催した。5月の会議は、第1回看護研究センター運営委員会の前日にあたる5月10日(水)17時より開催し、今年度の事業目的・計画の共有及び検討を行い、予算配分の調整を図った。12月14日(木)17時より開催した第2回の会議では、中間報告として、今年度の実施内容・成果・課題等を確認・共有し、今後の取組みに向けて協議した。

表2 代表者等会議の開催概要

日程	出席者	内容
第1回 5月10日(水) 17:00~18:30	代表:大川准教授、藤澤教授、服部教授、両羽教授、日比准教授 看護研究センター:黒江センター長、会田教授、田辺教授、松下教授、小森助教	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の予算執行状況報告 ・今年度の各研修の目的・計画の報告、充実に向けた検討 ・予算配分の検討・調整 ・報告書の別刷に関する検討 ・ホームページの活用についての検討
第2回 12月14日(木) 17:00~19:00	代表:大川准教授、藤澤教授、服部教授、両羽教授、布原准教授、日比准教授 看護研究センター:黒江センター長、会田教授、田辺教授、松下教授、小澤准教授、小森助教	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の実施内容、予算執行状況、看護職者の反応、成果・課題の報告 ・次年度の活動の方向性などの検討 ・報告書原稿の執筆要領の検討 ・ホームページの活用についての検討 ・リポジトリへの登録についての検討

本事業の実績と成果を明示するために、平成21年度からは本事業報告書をPDF化し、本学ホームページにて公表してきたが、27年度から本事業報告書を本学リポジトリで公開することを開始し、倫理面に関して十分に配慮するよう執筆要項に明示するとともにリポジトリでの公開にあたって事業ごとに3~5個のキーワードを付けてもらうこととした。

事業ごとの自己点検評価は、①実践の場に与えた影響、②本学の教育・研究活動に与えた影響、③看護職の生涯学習ニーズ、④事業実施上の困難な点・課題、⑤今後の発展の方向性の5点である。

Ⅳ. FD 研修会の開催

今年度は看護研究センターと教育能力開発委員会の共同企画で『看護実践研究指導事業のこれから』をテーマに3月7日(水)13時から14時30分までFD研修会を開催した。本研修会では、現在実施している事業の中から3年以継続している3事業について取組開始の経緯、趣旨・目的、取組内容等を紹介してもらい、教員間で共有した。当日のプログラムは表3のとおりである。

表3 FD 研修会のプログラム

時間	内容
13:00~13:10	研修会の趣旨および進行の説明/看護実践研究指導事業の趣旨・目的の説明
13:10~13:55	事業紹介(各15分、計45分) ①利用者ニーズを基盤とした退院支援の質向上に向けた看護職者への教育支援 ②地域における母子保健活動の充実に向けた研修会 ③看護の専門性を高めるマネジメント能力向上に向けた支援
14:00~14:30	グループワーク(30分) 事業紹介を聞いて看護実践研究指導事業の取組内容・方法等について考えたこと、看護職者の支援ニーズは何か、今後新たに必要と考えられる看護実践研究指導事業の取組は何か、等を意見交換する。